

平成 21 年度 宮前区区民会議企画部会（第 3 回）摘録

□日 時 平成 21 年 11 月 5 日（木）午後 6 時 00 分から 7 時 50 分

□会 場 宮前区役所 5 階 第 1 会議室

□参加者 永野部員長、宇賀神委員、佐藤委員、高木委員、松井委員

（以上、部会委員・欠席 前田委員）

岩佐企画課長、成沢主査、鈴木職員、眞榮田職員（以上、事務局）

岩下研究員（コンサルタント）

1 開会

- ・会議の公開について、事務局が説明し、委員の了承を得ました。
- ・欠席委員の連絡がありました。（前田委員）
- ・部会長（委員長）が開会のあいさつをしました。

2 議事

（1）第 3 回宮前区区民会議の議事について

※事務局から資料 1 に沿って説明がありました。

（2）第 1 期宮前区区民会議からの提案に対する取組状況について

※事務局から資料 2 に沿って、概要の説明がありました。

■質疑応答・意見交換

松井委員 いきいき健康マージャンは、結構参加者が多いようだが、メンバーは固定的でしょうか？

事務局 毎回の様に参加し、中心となっているコアメンバーはいるが、その方々が友達を連れてきたりしており、毎回常に新しい人が着ている状況がある。

資料の表の中で網かけになっている日程は、健康マージャンに合わせて、健康づくり講座をやった日である。その日はマージャンの開催は午前だけになるので、その分参加人数が少なくなっている。

松井委員 まちづくり推進協議会（以下まち協）のメンバーなどはこうした情報を知らないことが多いのが現状です。今どんなことが区で起こっているのか伝えていくことは、区民会議委員であり、まち協委員でもある私の役割の部分もありますが、事務局からも、まち協へのもっと積極的な情報提供、資料提供をお願いしたいと思います。

永野委員 毎月、第 3 木曜日に開催されているまち協の幹事会などの場で、情報提供や説明をしていけると良いと思います。

松井委員 まち協と区民会議に限らず、複数の組織が同じような検討や事業を重ねてやってしまうことが多々あると感じています。お互いに役割分担やそれぞれの活動をもって意識していく必要があると感じています。

（3）各部会の審議状況について

ア 公園・地域づくり部会

※佐藤委員（部会長）から資料 3 に沿って説明があり、質疑応答、討議内容についての意見交換などを行った。

※提案2 モデル地区を設定するのではなく、できることから、、、 15歳写真

佐藤委員 呼びかけ団体として、町内会内会連合会をいれてはどうかという話も出ていました。

松井委員 公園の管理運営協議会は、グリーンフォーラムでも声をかけることがあるのですが、まだあまり参加をいただけていない状況です。どのような活動をしているのかなかなか見えてこないと感じているのですが、実際の活動状況ではどうなのでしょうか？

事務局 公園の清掃等に留まり、コミュニティ的な活動までいたってはいない例がまだ多いのが現状です。

高木委員 愛護会や管理運営協議会、公園の清掃や花壇整備などを行っています。地域を取り込んだ活動を展開している例もありますが、全体的にはまだまだうまくいっていない面があります。

大きな活動をしている団体は4つくらいしかなかったと思います。提案4（公園・緑地管理運営協議会の活性化のための支援）はもう少し掘り下げないと実現性が乏しい面も感じます。

永野委員 これまで市の管轄だった公園事務所の機能が、各区に移管されるということで、少し変わってくるのではないかと期待しています。

高木委員 例えば、まず全体的な会議をつくって情報交換するなど、スタートラインを明確にする具体的な記述が欲しいところです。

永野委員 情報交換会や研修会などの案は部会でも出ていました。

松井委員 市でガーデナーの認定試験がありますが、最近受験者があまりいないらしいという話も聞きました。資格や制度があっても、それを活かす場がなければ意味がありません。つながりという要素があっても、空回りしている感があります。

河川アダプト・プログラムという河川管理事業も、メリットはごみ袋や帽子がもらえるくらいで、報告書を書かなくてはならないなどの縛りもあり、グリーンフォーラムでは登録をしていません。現場の想いや実態と制度が少し離れてしまっていることがあります。

高木委員 実際に携わっている市民が活用できるしくみであることが重要です。

松井委員 グリーンフォーラムでは、公園だからどうかは関係なく、緑として様々な活動を展開しています。

永野委員 公園でイベントを開催する際に、運営協議会を呼んだり、参加していただけるようになると良いですね。

事務局 区民会議の第1期から、防災などのテーマでも出てきた課題なのですが、既存の団体が、温度差はありながらも、それぞれの活動を展開されている中で、互いの活動をもっと知り、ネットワーク化していくべきだという議論がありました。

高木委員 公園についても、まず、集まっているいろいろな情報を交換する場ができると良いと思います。

事務局 現在も協議会の代表者が集まる会議は年2回ほどあるが、要望の場となってしまっている面があるようです。ただ、区民会議の提案として、どのような形にするかが難しいところです。

松井委員 提案1の掲示板設置は大変良いと思います。ただ、形式的に、どの公園でも同じ物をつくるのではなく、野川ファームで子ども達のアイデアで天道虫の掲示板を手作りで作ったように、自分たちで工夫させることが良いと思います。予算は資材代だけ出すという形もあります。ただつくれば良いのではなく、その過程が大事だと思います。

高木委員 飛森の掲示板の事例もあります。

永野委員 そうした過程を通じて、それぞれの公園が活性化するのだと思います。実際に動き出す時に考えながら進めていくことも必要だと思います。

イ 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会

※高木部会長から資料4に沿って説明があり、質疑応答、討議内容についての意見交換などを行った。

宇賀神委員 作成委員会のスタートのイメージがよくわからなかったのですが…

高木委員 報告書の5ページにもあるように、まず全体の方針や推進を担う委員会を立ち上げ、実際に作成作業に入る際はそれぞれの地域で部会を立ち上げていくイメージです。

事務局 参考になる活動として、グリーンフォーラムの桜のマップや緑のマップづくりの活動があります。

松井委員 区役所に来ている教育委員会の人から、校長会や教育委員会へのつながりをやっていただけないかと考えています。地域からも応援するということで、ぜひお願いしたいです。

事務局 地域でやることに学校を取り込むのは大変ですが、総合学習の中に地域が入っていくのはそれほど大変ではないのではないかという話が出ていました。

松井委員 学校がその気になってくれれば、地域は支える気持ちと体制はもっていると思います。

永野委員 そのあたりのイメージを報告書にもうすこし盛り込む方法もあります。

高木委員 区全体の実行委員会ができてから、各学校にお願いする段階についての記述は、1行のみで関係を表されています。

事務局 全体会の中で、再度委員の方々の意見を伺いたいと思います。

高木委員 部会の中では、今年度中に実行委員会の準備会を動かし始めようという話も出ていました。

松井委員 地域によって、人も違う。思いも違います。大きな趣旨は理解しながら、地域でそれが様々な形で膨らんで行くことも考えられます。カルタ以外の発展形に対しても、それを否定するのではなく、柔軟に支えていけるような土台も必要だと思います。

高木委員 マップづくりがオプションになっているというのも、そのあたりの含みを持たせているところです。

松井委員 地域でそれぞれふくらませながら、カルタを最終的にもちあげる。そういうふうにもって行きたいです。

永野委員 公園部会でも冒険遊び場だけでなく、よりよい公園の活用に話がふくらんでいくと良いですね。両部会とも委員会組織をつくっていくことが提案の中にあり、来年度にならないとそのための予算はつかない面がありますが、準備会のような活動は今年度から始めてはどうかという話が出ていました。

高木委員 区民会議も提案したら解散ではなく、区民会議フォーラムなども踏まえながら、実行委員会の準備などには入りはじめて良いかなと思います。

事務局 カルタづくりについては、事務局から年内に各団体にご説明、お願いに伺うようにしたいと思います。4月にすぐスタートするための助走準備はしておきたいと考えています。

(4) 宮前区区民会議・今後のスケジュールについて

※事務局から資料5に沿って説明があり、今後のスケジュールの確認、会議日程の調整等を行った。資料内容に加えて、主に確認・決定した事項は以下のとおり。

- ・ 3月14日に自治推進フォーラムの中で、7区の区民会議委員交流会が開催される。永野委員長が参加を予定している。
- ・ 12月の企画部会後に忘年会を開催する提案があり、調整を行った。

- ・ 次回の企画部会の日程を12月1日（火）とした。
- ・ 区長への提案提出の日程を12月14日（月）18：30～とした。
- ・ 次々回の区民会議全体会の日程は2月15日（月）とした。
- ・ 区民会議フォーラムの開催日程を、3月27日（土）とした。

（５）区民会議フォーラムの開催について

※事務局から資料6に沿って説明があり、意見交換した。

松井委員 このフォーラムかどうかはわからないが、区民会議の位置づけやまちづくり協議会との関係についてなど、ざっくばらんに話す場が必要だと常々感じています。

事務局 区民会議については、市内でも様々な議論があり、拡充論もあるようですが、宮前区はかなりうまく運営している方だと認識しています。他区では、提案がうまく事業につながっていなかったり、士気がさがっていることもあるようです。

松井委員 まちづくり協議会との整合性については、お互いがそれぞれの役割を意識しなければならないと思います。現状はそれぞれ勝手な判断でやっているように感じます。まちづくり協議会は中間支援組織になるべきだという意見がありますが、本当にそうできるのかという疑問もあります。まちづくり協議会の成果が予算に対して、近年小さいようにも感じています。

高木委員 まちづくり協議会は、何を目指してやっているかという根本、骨が弱くなっていると感じています。

事務局 区民会議フォーラムにまちづくり協議会の関係者にも来ていただき、話していくことはできると思います。

松井委員 役所としての見解もしっかり出して欲しいです。中間支援は生易しくありません。かなり力がないとできないと感じています。市長も「人材育成」と盛んに言っていたが、どのように、どのような職員を育成するのかのビジョンが必要です。市民活動センターとの整合性も中途半端で、重なっていることが多いように思います。

永野委員 まちづくり協議会は「自分のやりたいことだけやればいい」なになってきてしまいつつあるのではないのでしょうか。

松井委員 市民のベクトル合わせの場が必要です。役所職員は仕事ですが、市民はボランティアです。この差は非常に大きい。良いまちになるならもっと市民参加にお金をかけても良いと思います。

事務局 フォーラムで出た質問として、分科会で参加者と一緒に考えていけるような形も良いでしょう。

松井委員 予算の裏づけが無いと、なかなか活動のモチベーションもあがりません。取組の実施に際しては、お金も重要です。まち普請予算などができると良いなと思います。ステップアップ助成は、最近新しい団体からの申込みがあまり来っていないようです。

3 報告

（１）平成22年度宮前区協働推進事業計画（案）及び区の課題解決に向けた取組（案）について

※事務局から資料7及び、追加資料に沿って説明し、意見交換した。

松井委員 宮前区として農業に対する事業というのはないのでしょうか。

事務局 区として、現状ではありません。

松井委員 グリーンフォーラムでも農業の話がよく出ます。宮前区には農に関する資源がたくさんありますが、課題もたくさんあります。先日参加した多摩区での勉強会「川崎の農を知ろう」には宮前区

の農家の方が8人くらい来ていました。高津区などの他区では農に関する事業や活動を展開しつつある区もあります。宮前区でもぜひ進めたいと思います。

事務局 行政としては、宮前区で都市農業が盛んなのも十分承知しています。しかし、経済局というしきりもあり、課題が具体化してこないと取組みにくい面があります。また、企画課としては、他の事業に手一杯でマンパワー的に不安が大きい現状もあります。ただし、重要な課題でありますので、例えば、第3期の区民会議で「農を通じた地域づくり」というテーマで取り上げていただくのもひとつの方法だと思います。

松井委員 多品種少量で、地元で農家の方が自分で値段をつけて売れるような場があると良いと思います。セレスモスは農協が持っていつてくれるけど、追加ができないという意見を聞いたことがあります。また、宮前区の特産と言われていたメロンは、最近なくなってきており、最近はいちじくなどに変わっているということもあるようです。そうした情報も区民に流れるようにしたいです。

事務局 セレスモスは農協が生き残りをかけて、かなり力を入れている事業であり、それと競合するような事業は起こしにくい現状があります。全市から農産物を集めないとなかなかやっていけない状況もあるようです。農に親しむ教室展開などもしており、一つの核にはなっているようです。

宇賀神委員 協働推進事業と区の課題解決事業とはどのような区分けになっているのでしょうか。

事務局 協働推進事業は区役所だけで解決できるもので、区全体で5500万円の予算枠があります。区の課題解決事業は区役所だけではなかなか解決できないもの、局との連携や調整、議論を深めていく必要がある事業です。大規模事業やハード整備事業などはたいていこちらに該当します。協働推進事業は今年度は予算が余ってしまいそうな現状がありますが、当初より金額は変わらないなかで、事業数が倍増しており、運営面で行政側が手一杯だという声もあります。

松井委員 区民祭りなどを見ていると、行政が、本来市民がやるべきことまでやっちゃっている、市民が行政に甘えてしまっていると思うことがあります。行政もやりすぎてしまったり、きれいな資料を揃えすぎてしまっている面があると思います。協働のあり方などもこれからの課題としてあります。

(以上)